

今年もあと2ヶ月です 気温の差が激しく、体調を崩しやすい季節の変わり目がやってきました。少しの体調不良でも移動を制限されてしまう世の中になった今、体調管理を第一に、体調が悪いと感じたら無理せず悪化させないようにしましょう。現場も少しずつ戻りつつあるので **引き続き安全に心がけ** **現場作業を行ってください。** それでは、ここ最近の大阪での取り組みを報告させていただきます。

フォークリフト講習

東大阪事業所にて『フォークリフト講習会』を開催いたしました。昨年と同様にトヨタ L&F 近畿株式会社平野支店の営業グループのお二方を講師にお招きしました。内容は座学と実技の2部構成で、フォークリフトの基礎知識からはじまり、実際の事故事例から原因と対策を考えディスカッションしました。今年は実技講習が非常に濃い内容で、アンケートの結果も好評でした。まずはリーチとカウンターの違いを実機を見ながら確認。どの部分が死角になるのかコーンバーを用いて体験しました。またパレットからツメがどれだけ出ているか感覚のずれいる時に急ブレーキをかけるとどうなるかを実践して



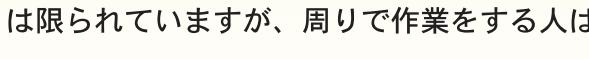
▲死角体験

づいた発想での実技講習になっていたかと思います。最後は最近起きた事故を少し再現し、何が原因か今後の対策についてしっかり考
ら『運転していない側ができ
ことで学べた知識が多くかった』
フォークリフトを運転する人
数多くいます。その人たちも
一緒に知識を深め、ひとつで
も事故が減るよう安全に取り
組んで行きましょう。

▲急ブレーキ体験



える時間をもうけました。アンケート結果から作業などが学べた』や『実際に実技で見るなどの意見をいただきました。
は限られていますが、周りで作業をする人は





▲急ブレーキ体験

安全パトロールはじめました

大阪では安全衛生向上委員会のメンバーが現場へ行き、作業員の健康状態の確認や安全のための装備をきちんとしているか、不安全な箇所はないか等のパトロールを始めました。安全監視員とは別の視点で見ることで、未然に事故を防ぐことを目的としています。不安全箇所を見つけたらチェックし指摘します。第一回の安全パトロールはチェックリストを作成して行いましたが、会場によって注意するべき箇所が変わってくるため、会場ごとの必要項目を随時更新予定です。

施工現場を作業員としてではなく俯瞰して見ることによって不安全箇所を発見し、全員の安全への意識向上を目指しています。



大阪では、アリーナ以上の現場にはデジタルサイネージを導入することになりました。その現場の責任者であるチーフは誰なのかを会場関係者やクライアントの方たちにいち早く知ってもらえるようアピールするのが目的です。また、会場での安全のための注意喚起、コロナ対策を掲示するなど、活用方法は様々です。何かご意見ございましたら大阪安全衛生向上委員会までご連絡をよろしくお願ひいたします。

